

## 林業相談

## セイヨウハシバミの繁殖法について

問 セイヨウハシバミ（ヘイゼルナッツ）の繁殖法についてお知らせ下さい。（空知N生）

答 セイヨウハシバミの原産はヨーロッパ、小アジア、北アフリカといわれ、現在栽培している主な国はイタリア、スペイン、イギリス、ドイツをはじめノルウェー、北アメリカ西岸と広範囲にわたっており、とくに菓子原料として親しまれています。日本ではまだ単木的な植栽で、大規模に栽培している地域はほとんどありません。外国では一般に無性繁殖が行なわれているようです。無性繁殖というのは栄養器官としての茎、芽、根等を用いて、母樹より分離させて、新しい生活体をつくることで、例をあげると、さしき、つぎき、とりき、株分けなどがありますが、北海道の場合、穂をとる母樹が少ないので、有性繁殖法である種子をまきつけた方が早道であると思います。

それではそれぞれの繁殖法について簡単に説明します。

### 1 さしき

ヘイゼルは比較的さしきが容易ですが、そのまま畑土にさしたのではなかなか発根しません。温室を使えば新梢の伸びる5月を除き、ほとんど1年中さしきができます。普通は休眠枝ざしと言って、冬まだ芽の動かない1月から2月頃までにとった穂を貯蔵しておき、5月から6月にかけて地温が上がってからさす場合と、緑枝ざしと言って6月下旬から7月にかけて当年伸びた枝が木化した頃にその枝をとってさしきする方法があります。用土は清潔で、排水の良いものを用います。当場では鹿沼土と火山砂を使用しています。火山砂はあまりあらいとさし床の通気が悪すぎてカルスばかり異常に発達する場合があります。当場の温室で休眠枝ざしを行なった結果では、35本さして13本と35%前後、緑枝ざしでは70%前後の発根率を示しています。

### 2 つぎき

つぎきはさしきより苗の生長が2～3年早まるのでさしきで発根困難なものでも利用できる場合があります。ヘイゼルの場合、台木は野生種であるツノハシバミが良いようです。つぎきの技術そのものは、地域ごとに林業改良指導員がいて教えてくれますのでここでは省かせていただきます。

### 3 とりき

ヘイゼルは非常に萌芽性が強いのでとりきによって確実に、しかも短期間に大きな苗を得られる利点があります。春になると、幹の周辺に地ぎわから多くの萌芽枝を出してきます。6月頃、そのまわりを高さ30～40cmの「木ワク」でかこみ、火山砂と畑土を半々にした土壌を萌芽枝の長さの1/2位の所までかけてやります。普通とりきをおこなう場合、環状剥皮をしてやる

のですが、ヘイゼルの場合はそのままでも十分発根してきます。秋になってから「ワク」を取りはずし、発根した下部の方から切り離して移植すれば良いわけです。

#### 4 実 生

ヘイゼルナッツはどんぐりによく似ており、9月下旬から10月にかけて収穫ができます。種子をとったら、すぐ湿った砂か、あるいはオガクズの中に層状に並べて土中埋蔵することが肝要です。当场で昭和45年5月21日に前処理なしに播種した結果では、発芽したのが2カ月後で、発芽率も30%以下と悪い成績でした。土中埋蔵したものは翌春4月下旬、地温が8~10°Cになったころ芽を出してきますので、もやし状にならないうちに畑にまきつけをおこないます。

以上おおまかにヘイゼルの繁殖法について書きましたが、まだ栽培実例もなく、北海道の場合、地域ごとの気象条件が異なりますので、栽培可能地域も限定されてきます。現在栽培が可能であると思われる地域は、おおまかにいってカシグルミが結実しているような地域と判断しております。本道ではまだヘイゼルに関する調査研究も浅く、今後、栽培技術の向上をはかっていくため努力しているところです。

(樹芸樹木科 開本孝昭)